

PONON²

ポノポノ

vol.5

2005.3 発行 浦安市 経営企画部 企画政策課 人権・男女共同参画班
〒279-8501 浦安市猫実1-1-1 TEL 047 (351) 1111
編集：「ポノ・ポノ」vol.5 編集会議・市民編集員

特集 結婚と家庭を考えよう

国勢調査によれば、この30年間で、30代前半の女性の未婚率は7.2%から26.6%へ、30代前半の男性は11.7%から42.9%へとそれぞれ大幅に増加しています。未婚率の高さの要因としては、結婚していないという状態が生き方のひとつとして認められるようになったことがあげられます。

しかし、現実には未婚者の9割弱が「いずれ結婚するつもりでいる」という調査結果も出ています（「出生動向基本調査」国立社会保障・人口問題研究所・2002年）。結婚したい人は多いはずなのに、なぜ晩婚化・非婚化がすすんでいるのでしょうか。

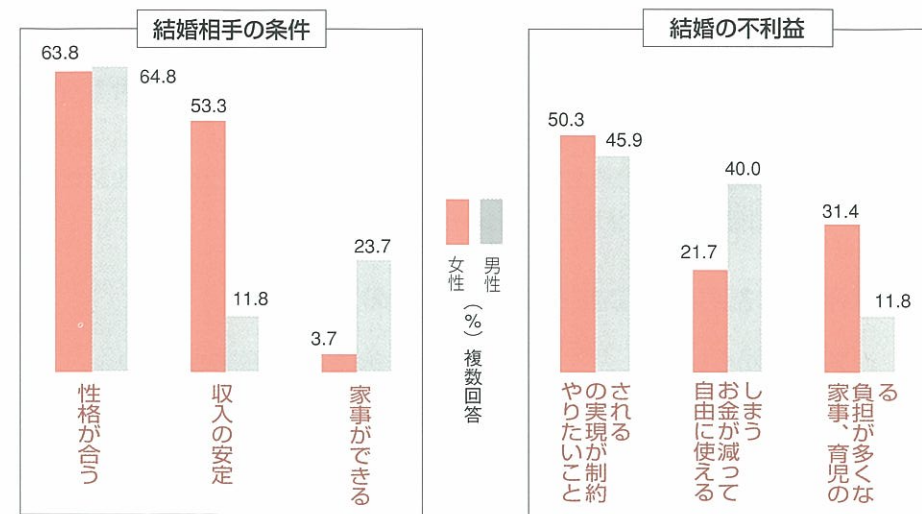


すれ違う男女の結婚観

次ページの図表1は「結婚相手の条件」と「結婚の不利益」という2つの質問の選択肢から特徴的なものを取り上げたグラフです。「性格が合う」と「やりたいことの実現が制約される」は、両方の質問でそれぞれ最も割合が多かった回答であり、男女で大きな差はみられません。

それに対して、それ以外の項目は男女で回答の割合に大きな違いがあったものを抜き出しました。この2つのデータを比較すると、男女共に結婚相手に望むことが、相手にとっては結婚によるデメリットになっていることがはっきりとわかります。

図表1 結婚相手の条件と結婚の不利益



出典：「国民生活選好度調査」内閣府（1997年）

「結婚相手の条件」では、女性の半数以上が収入を重視しています。それに対して、「結婚の不利益」を見ると、男性の40%が自由に使えるお金が減ってしまうと回答しています。

一方、「結婚相手の条件」で男性の23%以上が、家事ができることを重視しているのに対し、「結婚の不利益」で女性の31%以上が、家事・育児の負担が多くなると答えています。つまり、相手には性別役割分業を期待しているのに、自分は期待されたくないと考えているのです。このような男女間のズレが、結婚したいけれど条件が合わないから結婚しない、できないということになるのではないのでしょうか。

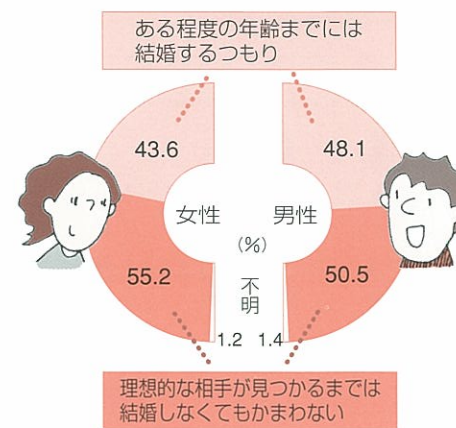
この調査から8年が経過しています。結婚について男女で食い違っていた考え方は、現在どのようになっているのでしょうか。

理想的な結婚相手とは…

前述した「いずれ結婚するつもりでいる」と答えた未婚者に、結婚に対する考え方をたずねたところ、男女とも半分以上が「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えているという結果がでています（図表2）。

理想的な相手とはどのようなものなのでしょう。もしかして、自分の求めている理想が、家事分担や収入などの面で自分だけが楽できるものになってしまっていないでしょうか。結婚という言葉に負担感や不平等感を感じるとすれば、それはなぜか、それらを減らすためにどうすればよいのかを考えてみる必要があるようです。女性も男性も、お互いを理解し合って、自分たち流の暮らし方を作り上げていくことが大切ではないのでしょうか。

図表2 結婚の意思を持つ未婚者の結婚に対する考え方



出典：「出生動向基本調査」国立社会保障・人口問題研究所（2002年）

うらやす NOW

僕が



柏井 諭さん

看護休暇を取ったわけ

育児や介護のために休暇制度を利用する男性はまだ少数派です。実父の介護のために約3ヶ月間の看護休暇を取った先生がおられることを知り、柏井諭さん(市立入船中学校教諭)を訪ねてお話をうかがいました。

Q 実際に看護休暇を取られていかがでしたか

取ってよかったです。妻が2人目の出産を控えて、父の介護と家事育児を1人でこなすのが難しくなったので、妻と何度も話し合っていて、出産前後は自分が父の世話をしようと思いました。妻に任せきりの時には他人事のように感じたのに、実際に父の介護をやってみると、親子の絆を強く感じました。休暇を取って一番よかったことは、父の世話を最後まで自分でやりたいと思えるようになったことです。

Q 休暇を取るにあたって悩まれましたか

私の場合、職場だけでなく生徒や保護者などいろいろな方にご迷惑をかけることになるので、不安を感じることもありました。ただ休暇を取らざるを得ない状況にあったことと、自分で父の介護をやりたいという気持ちの両方があったからこそ、その不安を乗り越えて休暇を取ることができたのだと思います。

Q 休暇の前後でご自身の中で変化がありましたか

実際に家事をやってみて妻の悩みや大変さを実感しました。2人で話し合うことが多くなりました。言葉にしなないとわからないですね。妻の夢を応援するために家事や育児を積極的にやるようになりました。休暇以前とはやろうという気持ちの度合いがまったく違います。妻とは、いろいろな意味で対等な関係でありたいと思うようになりました。現実にはまだなかなか難しいですけどね。

Q 今後、同じように休暇を取られる方へひとこと

周りに取りたいと思う方がいれば、協力したいと思います。私の場合は、職場の協力や生徒と保護者の理解があり、とてもありがたかったです。これからは、自分がしっかり仕事をすることで皆の気持ちにこたえたいと思います。

看護休暇とは…千葉県県の公務員の「職員の勤務時間、休暇等に関する条例」で定められた制度で、職員の配偶者や親族等が、けがや病氣、老齡などで、日常生活を営むのに支障があり、看護が必要な場合に、勤務しないことが認められた休暇です。

すてきな人

河田珠子さん

20年来浦安在住で、お菓子教室を主宰されていた河田珠子さん。現在は軽井沢にお菓子工房を開き、両方を行き来し、自分らしく生き生きとすごしている、そんな河田さんにお話をうかがいました。



子どもの成長とともにお菓子づくりもステップアップ

近所にケーキ屋さんがなく、子どもの喜ぶ顔が見たくて、お菓子づくりを始めたんです。下の子が幼稚園に入り自由になる時間が増えたので、本格的にプロの指導を受け、友人にお菓子づくりを教えるようになりました。教室を開いたのは浦安に越えてきてからです。

その後、子どもが結婚し孫が生まれたので、その世話を手伝えたいと思い、教室を閉め、お菓子の受注販売へと仕事のスタイルを変えました。そのほうが時間がより自由になったからです。孫も少し大きくなったので、家族で一緒に楽しめる環境がほしくなり、軽井沢に自分の工房を持つことにしました。

つまり、その時々自分ができていることを選んできたんですね。ただ単に変化に流されてきたのではなく、その変化を次のステップへの挑戦として楽しんでできました。

やってみないとわからない

軽井沢に1人で工房を持つことについては、家族に反対されてきてね。私は、「やってみないとわからない、だめなら修正すればいい」ぐらいの気持ちで新しいことを始めるほうですから、見ている家族はハラハラしたのでしょう。でも、おもしろいことに、人って動いてみると理屈ではわからないことがわかってくるんですよ。夫をひっぱって軽井沢へ下見に行ったのですが、私より夫のほうが「いいところじゃないか」と乗り気になりましてね。今では家族みんな喜んで足を運んでくれますよ。

スタートはいつからでも

不思議なことに「こうしたい」「こうなりたい」とずっと考えていると、そのようになるんですね。今すぐにはできなくても、チャンスはいつ訪れるかわかりませんよ。「私はこうなりたい」という思いに1歩でも2歩でも近づくとその先が見えてくるし、今やっていることも無駄じゃないとわかってくる。60代で軽井沢にお菓子工房を持つというのも、いろいろ苦労もありますが、楽しいですよ。スタートはいつからでも遅くはないと思います。

編集に携わって

この冊子は2004年度情報誌編集講座の受講者から募った「ポノ・ポノ」vol.5編集会議・市民編集員がつくりました。

玉井香織：最初は心配したけれど、お互いがより密接な関係を築けたことが喜びでした。編集の中で自分を振り返ってみることの大切さ、言葉に出して考えて見ることの難しさを実感しました。

津川久美子：専業主婦にとって男性の家事参加は諸刃の剣。生活力を求めるのなら経済力を求められてしかるべし。自己都合を押し付けてはいけないうちは結婚前も後も同じでした。

鍋野加津美：この1年で私が得たもの……、

それは以前と違う自分ではなく、物事を考える時の視点が増えたということ。生活力も経済力も、を目指してあせらず今出来ることから始めます。

堀 真弥子：私がほしいのは女と男のハーモニー。編集員の皆さんと女性プラザの方に励まされ、2歳の娘と一緒に参加できたことに心から感謝します。まず望むこと、そこから必ず道は開けると信じています。

前田敬子：女のくせに、男のくせに、〇〇のくせに……。そんな言葉はもう聞きたくないんです。誰もがやりたいことが「やってみよう」と言える。それが私の考える共同参画社会です。

ハワイ語の「PONO」（意味は、正しさ、幸福、繁栄など）に由来します。2つ並べて「ポノ・ポノ」と声に出して見たときの響きが親しみやすいでしょう！

「ポノ・ポノ」の意味

アナタの夫は家事をしますか？

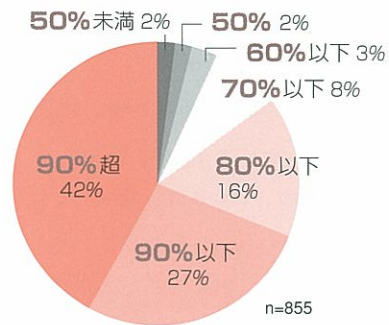
女性の社会進出が進む中、20代から40代の既婚女性の4〜7割が何らかの仕事をしており、働く主婦は増加しています（総務省統計局「労働力基本調査」2003年）。ところが仕事をしている、していないに関わらず、家事の大部分を女性が担っているのが現状です。これって、性別役割分業の押しつけかも……。

家事能力は男女を問わず人間として必要不可欠なはず。これからは男性も女性も生活力と経済力の両方を身につけることが期待されます。

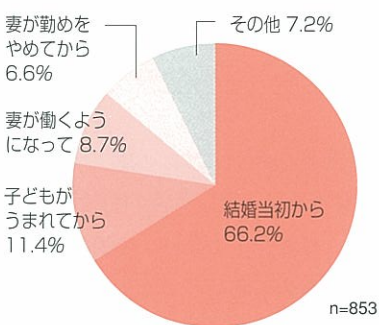
「ポノ・ポノ」では、生活力の基本となる家事について、東京ガス(株)都市生活研究所のデータをもとに男性の家事参加という点から考えてみました。

現在の家事はだれがいつからやっているの？

● 家事全体のうち、妻が担当している割合



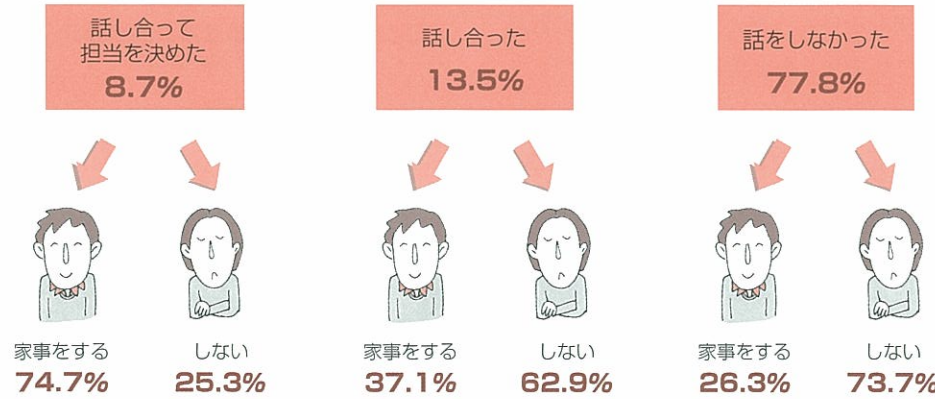
● 今の家事分担に決まったのはいつからか



出典：「家事分担の意識と現状」東京ガス(株)都市生活研究所（2002年）

妻が家事分担をしている割合は、妻の仕事の有無にかかわらず、平均すると家事全体の86.3%です。このような家事分担に決まったのは、66.2%が「結婚当初から」です。その後、妻の離職・就職、出産などを機に分担が変わったと答えている人がいるものの、依然として妻の家事負担はそのままのようです。

結婚時に家事分担の話をした人は？



出典：「家事分担の意識と現状」東京ガス(株)都市生活研究所（2002年）

ここで注目したいのは、結婚時に話し合って担当を決めた場合、夫が家事参加をする割合が高いという点です。話し合いで担当を決めることで、夫は自分のやる事が明確になり、行動しやすくなるのではないのでしょうか。「ポノ・ポノ」では、夫婦で話し合い、できることから夫の分担を決め、家事参加の機会を増やしていくことが、夫の基本的な生活力を高めるステップではないかと考えます。

ふたりのスタイルをつくっていきましょう！

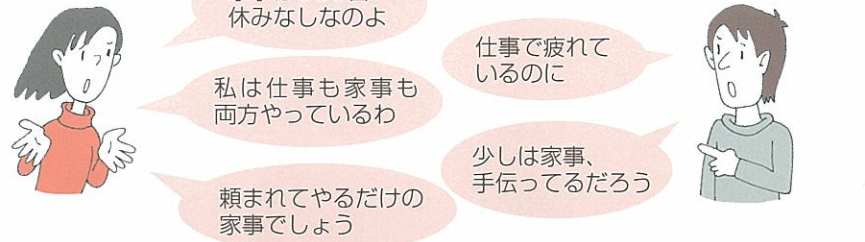
夫婦でよく話し合って、家庭生活をともに担っていくことが大切なのではないでしょうか。家庭のその時々状況に柔軟に対応できるふたりのスタイルをつくっていきましょう。



なぜ家事は女の仕事なの？

何度も話してぶつかって……

なぜ男が家事をしなきゃいけないの？



ライフスタイルは人それぞれ。でも、家事は家族みんながやることなのでは……。

男の家事時間は、どうやってつくる？

ある調査によると、30代男性の約8割が、炊事・洗濯・掃除などの家事に男性も「関わるべきだ」と答えています。にもかかわらず男性の家事参加が進まないのはなぜでしょう？
図表を見ると、浦安の男性は、仕事時間が長いことがわかります。残業による深夜の帰宅、休日出勤等の現状をみると、「家庭にまで手がまわらない」のが、原因の一つかもしれません。
仕事と家庭をバランスよく、どちらも充実したものにするには、性別役割分業を前提としている現在の働き方を見直す必要があるでしょう。



このイラストは編集員の津川久美子さんの作品です。



出典：「男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査」浦安市（2001年）